







令和3年 **2月**の**思いやり**通信

目次

- (1)  エコへの意識
 - (2)  オフィスビル電力 脱炭素
 - (3)  住宅のエネ消費 2030年18%削減へ 国交省、2013年比で
 - (4)  コンクリートにCO2封じ込め
 - (5)  大阪府「温暖化ガス4割減」 2030年目標 電動車9割に
-  **エコライフ** - さらに断熱性を高めるために

(1) エコへの意識



- ★太陽光発電導入量が最大の国は、中国
- *2019年の世界の太陽光発電の累積導入量は中国約33%、米国約12%、日本約10%、ドイツ約8%。
- *ドイツは再生可能エネルギーによる発電が全体の4割。
- *太陽光発電パネルのシェア上位3社も中国企業。
- *中国では、エネルギー消費量の約6割が石炭。
- ★家庭内で待機電力が大きいものは、ガス温水器
- *1世帯の平均年間消費電力量のうち約20分の1が待機電力。
- *1位は19%のガス温水器、2位テレビ10%、3位冷暖房エアコン8%、4位電話機8%、5位DVDレコーダーなど録音・再生機器6%。
- ★10分間のアイドリングをやめて1か月続けると、ガソリン代の節約額は、約500円
- *アイドリングとは、自動車をエンジンをかけた状態のまま停止すること。
- *アイドリングストップすると、CO2の排出抑制や騒音軽減にもつながります。
- ★国内の家庭、店舗などから1年間に出るごみの量、1日1人あたりだと、約1kg
- *日本国内で1年間に出るごみの量は、2018年度で4272万トンと東京ドーム約115杯分。
- *1日1人当たりでは918g。
- *数値は年々減っています。
- ★伐採などにより1990年から25年間で消滅した世界の森林面積は、日本の国土の3倍強

- *森林は、世界の陸地面積の約3割を占めます。
 - *1990年からの25年間で日本の国土の3.4倍にあたる約1億2900万ヘクタールの森林がなくなりました。
 - ★鉄、木、コンクリートのうち、断熱性が一番高いものは、木
 - *熱の伝えやすさを示す「熱伝導率」をみると、木はコンクリートと比べて約11分の1、鋼材と比べて約480分の1。
 - *木は熱を伝えにくく、自然の断熱材。
 - *脱炭素社会の実現に向け、建物の断熱性強化は大きなポイント。
 - *公共施設など都市インフラでの木材の利用が始まっています。
 - ★暖房便座、未使用時にふたを閉めると、節電に
 - ★エンカル消費も重要に
 - *社会や環境のことを気遣って行動するエンカル（倫理的）消費の視点も脱炭素経済を実現するには重要になります。
- （2021年1月9日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）



(2) オフィスビル電力 脱炭素

三菱地所、丸の内30棟 テナント誘致の柱に

- *大手不動産会社が保有物件で使う電力を一斉に再生エネルギーに切り替えます。
 - *三菱地所は2022年度にも東京丸の内に持つ約30棟で、東急不動産も2025年ごろに全国の保有施設すべてを再生エネルギー仕様とします。
 - *再生エネルギーを使うことで電気利用のコストは上がります。
水力や風力発電は火力発電より発電費用がかかるから。
通常の電力より約1割高くなります。
 - *増加するコストをテナントに転嫁しない方針。
オフィスの脱炭素化を立地や設備などと並ぶテナント誘致の柱と位置付けます。
 - *オフィスで使われる電力は、企業・事業所が使う電力の約6%。
 - *再生エネの発電量に占める割合は、2019年度速報値で18%。
- （2021年1月18日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(3)  **住宅のエネルギー消費 2030年18%削減へ**


国交省、2013年比で

*国土交通省は2030年の住宅のエネルギー消費量について、2013年比で18%削減する目標を掲げる方針。

*2018年時点では2013年比3%減にとどまっています。

(2021年1月19日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(4)  **コンクリートにCO2封じ込め**

三菱商事 製造時に環境負荷軽減

*三菱商事が地球環境に配慮したコンクリート生産手法の確立に乗り出します。

*コンクリート原料のセメント製造時に出る二酸化炭素(CO₂)を建物の壁などに封じ込めます。

*日本のCO₂排出量の約3%は、セメント業界が占めます。

*通常のコンクリートと比べ強度は高まり、CO₂排出量は約5%減らせます。

*セメント使用量を抑えられ、コストは変わらないといえます。

*セメントは1M³を製造するのに約300kgのCO₂が発生。

*鹿島なども生コンを固める際にCO₂を閉じ込める技術を開発中。

(2021年1月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5)  **大阪府「温暖化ガス4割減」**

2030年目標 電動車9割に 再生エネ普及も促進

*大阪府は、2030年までに軽自動車も含めた府内の新車販売台数のうち9割をハイブリッド車(HV)や電気自動車(EV)などの電動車とする目標を掲げます。

*二酸化炭素(CO₂)などの温暖化ガスを2013年比で40%削減することを目指します。

*2019年の府内の新車販売台数は約22万台で、電動車は36.6%。

*大阪府内の自動車保有台数は二輪車を含め約380万台で、全国で5番目に多くなっています。

(2021年1月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



エコライフ - さらに断熱性を高めるために

*断熱性能を高める工夫をするほど、より光熱費を節約できるようになります。

*さらに性能を向上させようとしたときの優先順位は、①窓 ②壁 ③設備。

*室内から外へ逃げていく熱の50%が窓からです。

まぞは窓の断熱性能を向上させることが、効果的に断熱性能を高める方法です。

*壁の中に入れる断熱材、壁の作り方を十分に検討し断熱材の厚さを増していくことで、断熱性能が向上します。

*住宅の熱的性能を向上させる機器には熱交換システム、冷暖房機器、組み込み式の調湿システムなどがあります。

設備の場合は、物にもよりますが後々強化することも可能です。

ただし、高性能なものはいずれも非常に高価です。

(高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より引用・抜粋)

